

人も自然も共に生きる

ESD × 生物多様性しんぶん

2010年夏号

やんばるの海の恵み photo: 久高将和

このニュースレターは、ESD-Jが取り組む「ESD×生物多様性」プロジェクトのプロセスや成果をお伝えするために、年4回発行しています。

「ESD×生物多様性」地域ワークショップレポート.....

E SD-Jは、今年10月に名古屋で開催される生物多様性条約第10回締約国会議（CBD/COP10）を契機に、生物多様性を大切にした地域づくりと人づくりを国内外に広げるべく、2009年夏から「ESD×生物多様性」プロジェクトに取り組んでいます。昨年は全国各地から興味深い実践事例を集め、冬から今年の春にかけて北海道紋別市、石川県金沢市、京都市、岡山市、宮城県栗原市、鹿児島県姶良市でワークショップを開催しました。ここでは、4月に行われた岡山でのワークショップをご紹介します。

生きものと学校と地域づくりin岡山市建部町竹枝地区

竹 枝地区は、岡山市の中心街から車で30分程度の中山間地にある人口755人の地区。そのまん中にある竹枝小学校は、緑豊かな山々と清流に囲まれた、児童数30名の小規模校です。

ここに数年前、地域の子どもたちに“ふるさと”的なよさを伝えていくと、住民有志による「竹枝を思う会」が発足。まずは、学校の前を流れる川の水辺環境を有志の手で整備し、かつて川遊びをした環境を復元しました。そこで自然の宝物探しや、ホタル狩り、河原キャンプ、裏山体験など「水辺の学校」を続けています。また、川をせき止めて干上がった川の魚を拾う「かいぼり調査」など、自然の状態を把握し、よりよい環境づくりに生かす試みを、地域・学校・大学・地域外の応援団が協働で行っています。

4月25日に開催した地域ワークショップでは、午前中にこれらの地域活動を体験したのち、竹枝地区における「生きものと学校と地域づくり」を結びつけて発展させていくための中心的課題を抽出し、それに対する現状整理と方策の検討を、町の人（住民、教員）、市街の人（大学関係者、

市職員、市会議員）、市外の人（NPO、ESD-J）などの参加者全員で行いました。抽出された課題は以下の4つです。

- ①**学校の存在意義を高めたい**:児童数の減少で学校の存続が危惧される中、親が行かせたい！子どもが行きたい！と思う学校づくりにどうすればつながるか
- ②**総合学習をもっとよくしたい**:「水辺の学校」は課外学習。その体験をどう学習に生かしていくのか
- ③**地域みんなの宝にしたい**:今ある活動の良さをもっと地域の人たちに知ってもらいたい、参加してもらいたい
- ④**地域にプラスになる交流を生み出したい**:地域外との交流をどう組み立てていくのか、竹枝の応援団をどうつくるのか

どれも簡単に答えがみつかる問い合わせはありませんが、地域の人々が立場や意見のちがいを超えてこのように議論をし、方向性を探りながら実践を重ねていること自体がすばらしいことであり、大切なことなのだと、ひしひしと感じることができました。

*昨年収集した事例報告や各地のワークショップレポートは、ESD-Jウェブサイトからご覧いただけます。



学校田で「自然の宝物さがし」



課題ごとに分かれ、ディスカッション

CBD/COP10カレンダー

CBD COP10をめぐる国際、国、市民の動きをご紹介します。

8月1日	生物多様性まつり	山梨
8月5日	地球いきもの会議フェア 夏の自然体験ワークショップ (観察会)	東京
8月5日、 10日、18日	地球いきもの会議フェア IUCN-Jおりがみワークショップ	東京
8月10日	地球いきもの会議フェア「5つのアクション」	東京
8月12日	地球いきもの会議フェア「生態系と生物多様性の経済学」	東京
8月18日	地球いきもの会議フェア「せみの抜け殻調査」	東京
8月23日 ～26日	生物多様性国際ユース会議 in 愛知 2010	名古屋
8月23日 ～24日	SATOYAMAイニシアティブ国 際パートナーシップ準備会合	山梨
8月27日	生物多様性国際ユース会議 in 愛知 2010発表会	名古屋
9月3日	地球いきもの会議フェア	東京
9月中旬	CBD市民ネット政策提言集 約発表	
9月22日	国連総会 生物多様性に 関するハイレベル会合	ニューヨーク
10月6日 ～8日	カルタヘナ議定書 第4回 議長の友会合	名古屋
10月11日 ～15日	生物多様性条約第5回カル タヘナ議定書会合 (MOP5)	名古屋
10月15日 ～16日	CBDキャバシティビルディング デイ(NGO向けガイダンス)	名古屋
10月16日 ～17日	NGO戦略会合 (NGO声明 検討のための会議)	名古屋
10月18日 ～29日	生物多様性条約第10回締 結国会議(COP10)	名古屋
10月19日	「ESD×生物多様性」シン ポジウム(ESD-J)	名古屋
10月20日 ～21日	生物多様性×開発シンポジ ウム(名古屋NGOセンター)	名古屋
10月24日 ～26日	国際自治体会議	名古屋
10月27日 ～29日	COP10閣僚級会合	名古屋

情報提供：環境省生物多様性地球戦略企画室、IUCN日本委員会、CBD市民ネット

「ESD×生物多様性」プロジェクト2010の進め方.....

プロジェクト2年目の今年は、昨年集めた9件の事例から、生物多様性を大切にした地域づくりを進めていくためには、どんな取り組みが有効かについて分析を進め、考え方やノウハウなどを整理するとともに、そのような取り組みを国内外に広げていくための、COP10に向けたアピール文書を取りまとめます。

春には地域ワークショップを、6月には事例収集に取り組んだ関係者による会議を開催、8月上旬にはインドネシアで国際ワークショップを行います。このワークショップは、生物多様性の破壊が著しいアジアの国々の視点から提言やメッセージを膨らませたり、磨いたりすることが目的です。参加国は中国、フィリピン、インドネシア、インドと日本の5カ国、13名。帰国後さらに議論を深め、9月にはアピール文書を完成させます。

10月のCOP10ではアピール文書の配布やセミナーの開催などを通して、その周知に取り組みます。現在のところ、「地域の生物多様性の恩恵の上に、生活・社会・文化の多様性があり、それらを一体として守り、発展させていくことが大切である」と、そのためには“自治、ガバナンス”“生業、経済”“資源の共同管理”などが重要であり、それらを地域の人びと創っていくプロセスでESD的なアプローチが役に立つだろう」といったことがキーメッセージになりそうです。

そして、冬にはこれらの活動を通して、まとめてきた生物多様性を大切にした地域づくりのためのエッセンスをハンドブックとして発行、2011年には人材育成事業につなげていく予定です。

持続可能な地域づくりと公正な資源配分を考える

CBD市民ネット「生物多様性と開発」作業部会.....

生物多様性保全を進めるには、生物の生息状況の把握や保護に加え、わたしたちの暮らしや社会のありようを問い合わせし、多様な生物と共に存できる社会構築が大事—この視点を出発点に、5月、ESD-J、国際協力NGOセンターほか国際協力NGO、環境NGO、人権NGOが、CBD市民ネット内に「生物多様性と開発～貧困・人権・地域づくり」作業部会を立ち上げました。

この2か月、作業部会ではポジションペーパーの草案作成や、国内外の生物多様性保全に配慮した持続可能な地域づくり事例をベースにした内部学習会、COP10・100日前イベント公開学習会を実施し、生物多様性保全を地域づくりの視点から議論してきました。

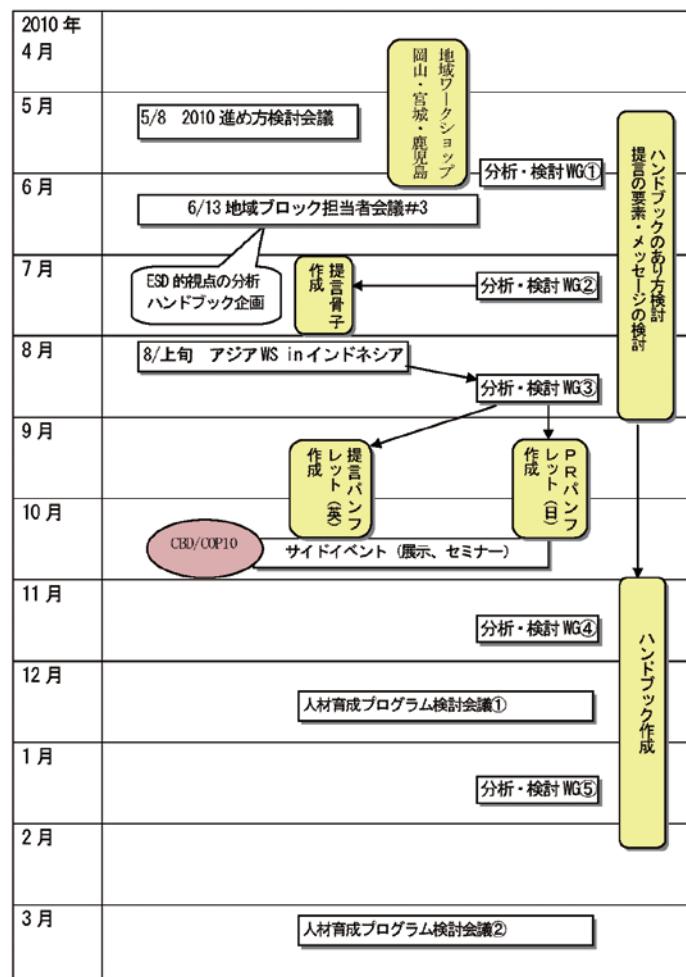
これまでの議論のポイントは主に2つ。一点目は、先進国と途上国といった南北問題における人と自然資源の収奪と、そこ

から生じる生物と文化多様性の破壊。二点目は、先進国・途上国を問わず、都市と農山漁村との間や、多数派民族と先住民族との間の人と自然資源の収奪や、それによる生物と文化の多様性の喪失の問題。

構造的に異なる2点の共通点・相違点を探る中で、「自己決定権」、「小規模な地域循環経済」、「資源の公正な配分」などが、持続可能な地域づくりの重要な要素として明確になってきました。

作業部会では、これらの要素を参考に、人と人、人と自然、まちとむら、南と北が、豊かな関わりあいを、どのようにつくっていくのか、そのためには、わたしたちはお互い何を学びあえるのかについて議論を深め、COP10時期に開催予定の公開学習会や、9月のポジションペーパー確定に結びつける予定です。

*作業部会では、いつでもメンバー募集中!
詳細はESD-J事務局まで。



公開学習会では、カンボジアと栃木の事例を紹介



事例発表をもとにグループに分かれじっくりと議論した



発行：認定NPO法人「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議（ESD-J）

編集：ESD-J 地域プロジェクトチーム <http://www.esd-j.org> e-mail: admin@esd-j.org

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-67 コスモス青山B2F TEL: 03-3797-7227 FAX: 03-6277-7554



この印刷物は、平成22年度地球環境基金の助成を受けて制作されています。

レイアウト：宮部浩司